

1566 5.3. 湖辺面活用・まちづくり

1567 5.3.1. 水辺整備と湖辺面の利活用

1568 ■ 課題

1569 過去の諏訪湖の護岸整備等により親水性が下がり、湖と流域住民との関係が疎遠になりました。
1570 諏訪湖の水質悪化が著しいときに高まった流域住民の諏訪湖に対する関心も、水質改善に伴い次第
1571 に関心が下がってきています。

1572 そこで、水辺整備と湖の利活用により、湖と流域住民、県民、観光客との関係性を再構築し、諏
1573 訪湖の恵みをより多くの人たちが享受できるものとすべく、諏訪湖創生に対する気運を高め、連
1574 携・協働による諏訪湖創生の取組を進めていくことが必要です。

1575 湖畔はこれまでの水辺整備マスタープランに基づく取組により、利用しやすく自然を感じられる
1576 景観となってきています。また、ヨットハーバーや漕艇場では、競技会なども開催されています。
1577 しかし、湖畔の景観は好ましいものとなっている一方、親水利用には適さない箇所が多く存在しま
1578 す。また、湖面及び流入河川にヒシ等が繁茂した状況は、景観上好ましくないとの住民意見がある
1579 ほか船舶の運航上の支障にもなっています。

1580 湖周にはジョギングロードが整備され、ウォーキングイベントの開催や、日常のランニングコー
1581 スとして利用されています。併せて、サイクリングロードが整備され自転車を活用したまちづく
1582 り、観光振興の推進が期待されますが、一方、利用に当たっては通行のルールづくりが必要となっ
1583 ています。

1584

1585 ■ 20年後の目指す姿

人々が憩い、やすらげる水辺空間

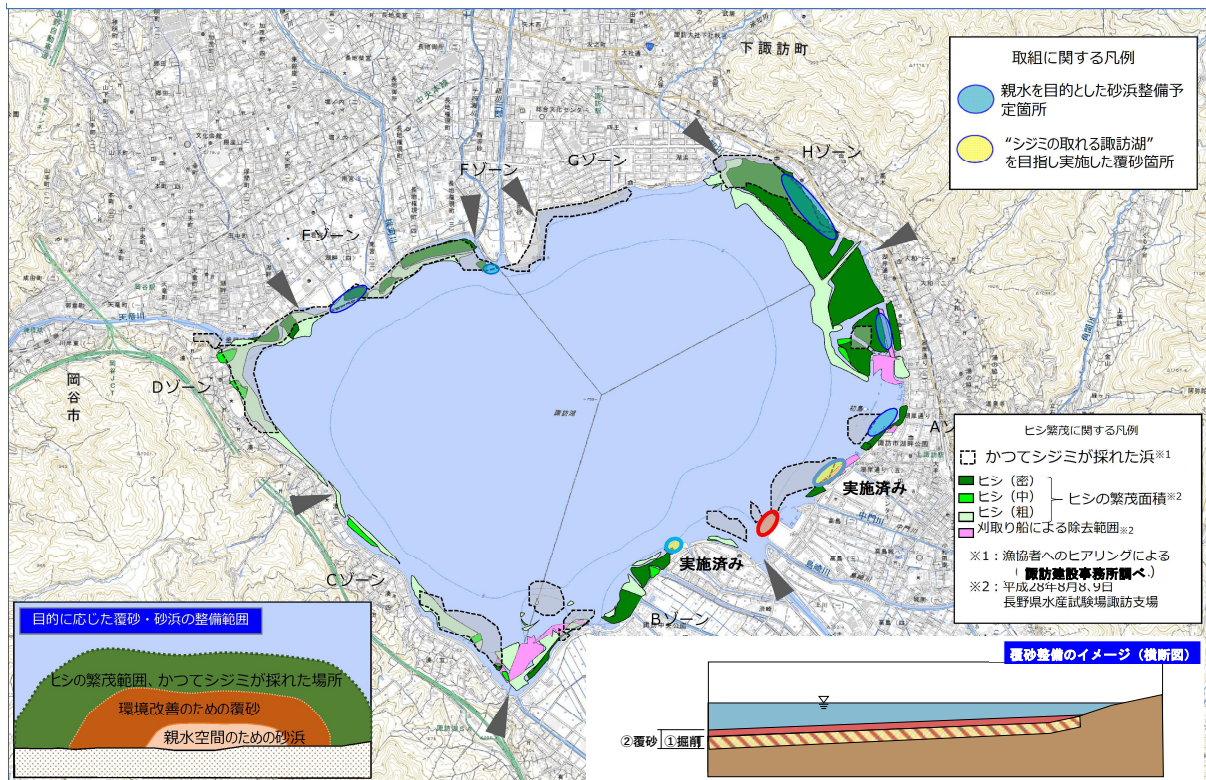
1586

- 1587 ● 湖上ではヨットやボートなどを楽しみ、湖畔の砂浜では泳いでいる人々の姿がある。
- 1588 ● 水辺カフェで、ゆったりとした時間を楽しむ人や、諏訪湖に映える美しい景観を背にカメラ
1589 を構える人等で賑わっている。
- 1590 ● 湖畔公園から間欠泉センターまで、憩い、楽しめる場所が切れ目なく続き市民や観光客が利
1591 用し賑わっている。
- 1592 ● 漕艇場の機能を向上させ、スポーツを楽しみながら、健康増進を目指す人たちが増えてい
1593 る。
- 1594 ● 諏訪湖へ流入する河川環境が改善整備され、それらを巡るカヌーコースを楽しむ愛好者や観
1595 光客が増えている。
- 1596 ● 整備されたサイクリングロードを利用する人も増え、自転車を楽しむ愛好者の拠点としての
1597 機能も充実している。

1598 ■ 今後5年間の取組（県・流域市町村）

1599 (1) 砂浜の整備

1600 「泳ぎたくなる諏訪湖」の実現に向けて、貧酸素対策、ヒシの繁茂対策として湖岸に覆砂する箇
1601 所の一部に、水浴場等の利用を見据え、水面より上にも砂を敷き詰めて砂浜を造成します。砂浜を
1602 造成する箇所では、周辺の公園などと一体となった利用を促進します。



1603

1604

図 5.7 砂浜整備の予定箇所

1605

1606

1607 (2) 治水浚渫

1608 諏訪湖では、1969年(昭和44年)から2002年(平成14年)までに水質浄化を目的とした底泥の浚
1609 渫をしました。一方で、河道の流下能力が不足する箇所や、河川水の流入阻害がある場合に、堆積
1610 した土砂を掘削する治水浚渫を土砂の堆積状況に応じて実施しています。諏訪湖では、年平均で2
1611 cm程度の湖底への土砂の堆積があると推定されますが、現時点では、諏訪湖の最も浅い場所でも、
1612 堆積している土砂の高さは、治水機能に支障がでる高さまで約1m程度の余裕があるため、治水上
1613 問題が生じることはないものと考えております。

1614 今後は、これまでと同様、土砂の堆積が多いとされる流入河川の河口部を中心とした場所で、治
1615 水浚渫を堆積状況を見ながら適宜行います。併せて川の流れが湖内へスムーズに流入するような掘
1616 削も検討していきます。

1617 また、治水浚渫の効果及び諏訪
1618 湖全域への堆砂の影響を把握する
1619 ため、2025年度（令和7年度）
1620 に諏訪湖全域の湖底調査を実施し
1621 ます。

1622

1623 (3) 利水・生態系浚渫

1624 国民スポーツ大会の開催、諏訪
1625 湖の水深が浅くなることへの懸
1626 念、船舶等の運行支障のおそれ、ヒ
1627 シの大量繁茂による景観・環境の

1628 悪化を懸念し、新たに利水・生態系保全を目的とした浚渫の要望がある一方、過去の浚渫により貝や
1629 エビなどの水生動物がいなくなったことから、生態系への配慮が必要という意見も出されています。
1630 これらを踏まえ、具体的な箇所ごとの利活用の方向性（生態系の空間を維持、砂浜整備、景観への配
1631 慮等）について、地域のコンセンサスを得たうえで、効果的な浚渫箇所・方法を調査・検証してい
1632 きます。

1633

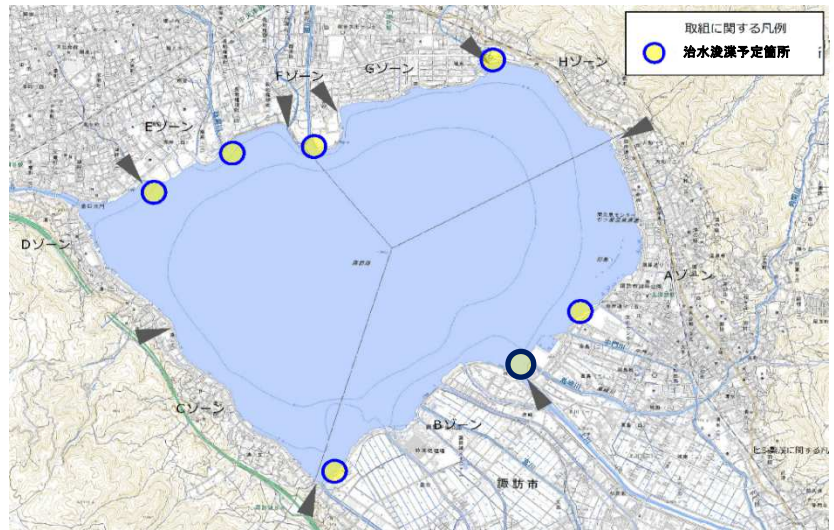


図 5.8 治水浚渫の予定箇所

1634 (4)水面の利活用

1635 諏訪湖の水面はヨット、
1636 ボート、釣りなどにより、
1637 レジャー面においては、今
1638 でも盛んに利用されています。災害時に、船で物資や
1639 人を運ぶことができるよう
1640 にする防災船着き場を整備
1641 したことを踏まえ、諏訪湖
1642 の防災拠点化について関係
1643 市町と連携し対応を検討し
1644 ます。また、カヌー・カヤ
1645 ックで諏訪湖と川を行き来
1646 することで、水郷諏訪の魅
1647 力を楽しめるような体験会
1648 などを開催します。



1649 図 5.9 水面利用の活性化と防災ネットワーク

1649 釜口水門の船通しを通して天竜川まで下るなど、諏訪湖だけではなく、流域と
1650 しての意識を高める使い方も検討します。

1651 気持ちよく諏訪湖で過ごすために欠くことのできないごみの問題については、アダプトプログラ
1652 ムの活動等によりごみ拾いが行われていますが、近年ではマイクロプラスチックゴミも大きな課題
1653 となっていることから、長野県環境保全研究所によるマイクロプラスチックの実態調査や市民参加
1654 によるまるまるゴミ調査等により実態を把握し、常にごみの無い諏訪湖を目指していきます。

1655



1656

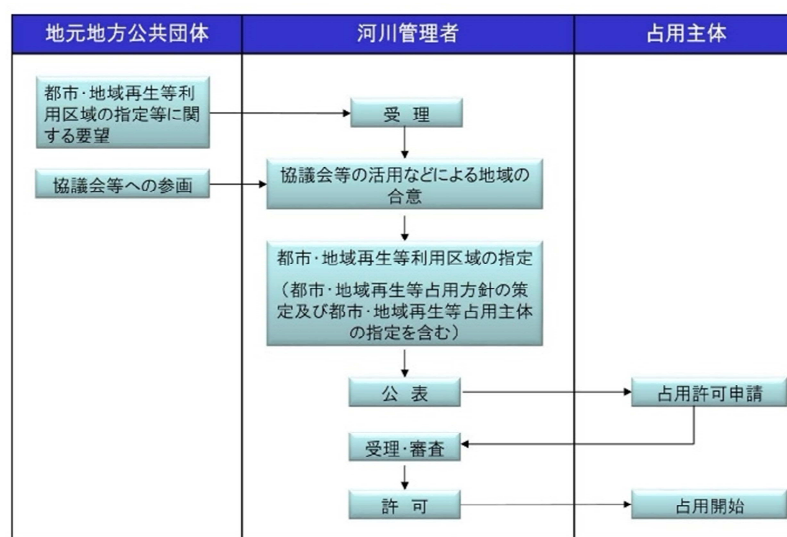
「諏訪湖創生ビジョン」フォト・イラスト作品選考会 入選 『力強く』

1657 (5)水辺空間を活かした賑わいの創出や魅力あるまちづくり

1658 諏訪湖周辺には諏訪市湖畔公園（石彫公園）や赤砂崎公園（下諏訪町）等に代表される魅力ある
 1659 資源が数多くあります。

1660 一方で、「湖や山など豊かな自然の景色を眺めながら、カフェなどでゆったりとした時間を満喫
 1661 したい」といった、より水辺に近い空間に憩いの場を求める住民の意見も多数あります。

1662 既にある資源や湖の特徴を更に活用するなど、諏訪湖ならではの水辺空間を活かした賑わいの創
 1663 出や魅力あるまちづくりを目指して、関係市町や信州地域デザインセンター（UDC信州）など各
 1664 種団体等と連携し、民間事業者による水辺カフェの運営等の「河川空間のオープン化」、「ウォー
 1665 カブルなまちづくり」に向けて官民一体となって推進していきます。



1666

1667 図 5.10 河川空間のオープン化の事例 (出典：国土交通省資料)

1668



新町川水際公園での水上ステージ



とくしまマルシェ

1669

1670 オープン化の事例 (徳島市) (出典：国土交通省資料)

1671 諏訪湖水辺整備基本計画（平成30年3月策定）

諏訪湖の水辺整備マスタープラン策定から20年余が経ち湖岸の整備は90%程度進んでいますが、新たな課題や地域のニーズ等を踏まえて、マスタープランを引き継ぎ、今後の諏訪湖の整備と利活用等の方向性を示す、水辺整備基本計画を策定しました。

この計画では、マスタープランのゾーンを引き継いで、A～Hのゾーンでそれぞれの場の特徴を活かした利用を目指しています。

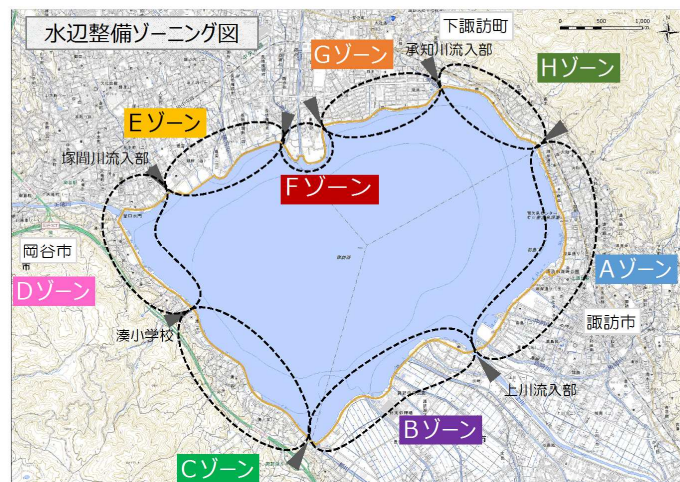


図 5.11 水辺整備基本計画のゾーニング

1672

1673 それぞれのゾーンの整備の方針と整備内容は次のとおりです。

1674

賑わいとふれあいの湖畔(Aゾーン)



水辺整備基本計画(案)

水辺整備マスタープランでの整備後の課題

- サイクリングロードが未整備のため、自転車が公園内の園路を通れず、自転車利用で諏訪湖畔の環境を十分楽しむことができない。
- 間欠泉センターは一定の利用があるが、さらなる利用が望まれる。
- 湖畔の空間利用はできているが、湖周道路により分断されているため、堤内地との一体利用は難しい。
- 広域からの来訪者にとっては、上諏訪駅からのアクセスが悪い。
- 生態系の代表としてのシジミの生息する環境として課題がある。

住民意見

- 遊歩道と湖畔の間にカフェがレストランがほしい。
- 駐車場が少ない(狭い)
- サイクリングロードの整備を望む
- 水浴を含むウォータースポーツができる場所
- 曾根遺跡の発掘、活用

※赤文字：当該ゾーンへの意見



整備(利活用)の方向性

- 水域、後背地との一体的な整備などによる、河川空間のさらなる魅力の向上

整備方針

- 「泳ぎたくなる諏訪湖」を実現するための、砂浜の創出(覆砂：浅場造成)
- 水郷諏訪の魅力を発見・体験できる舟(カヌー)の利用活性化
- サイクリングロードの整備による諏訪湖の周遊利用の拠点
- 水辺カフェ、にぎわいのある施設等、河川空間の有効活用

整備内容



1675

水辺の生物豊かな湖畔(Bゾーン)



水辺整備基本計画(案)

水辺整備マスタープランでの整備後の課題

- ゾーン全体で生物に配慮する空間として計画したが、景観を優先すべきとの意見もあり、一部区間は生態系への配慮が難しくなっている。
- 覆砂によるシジミの生息環境の再生の試験施工を実施している。
- 鳥類は確認種が他のゾーンに比べて一番多く、絶滅危惧種も多く確認している。
- 水生植物の確認種が20種類以上と多く(平成27年度調査)、特にクロモ、セキショウモ、ササバモ、センニンモ、ヤナギモ、ヒロハノエビモなどが確認されており、沈水植物の豊かさが際立っている。
- ゾーン内の空間利用の区分などを考慮しつつ、エゴの復活などの計画をみなおしている。
- 堤内地には商用施設もあり、これらの連携も考慮する必要がある。

住民意見

- 多目的広場のような緑と広場が欲しい。
- 豊田あたりはヨシが茂り、貝をとったりしていた。
- 今の諏訪湖は魅力に乏しい。多様性がなく、生態系が単純なため。

※赤文字：当該ゾーンへの意見



整備(利活用)の方向性

- 豊かな水生植物帯や、多様な生態系の空間の維持

整備方針

- 湖畔について、生物のモニタリング調査とそれに基づく維持管理

整備内容



1676

図 5.12 水辺整備基本計画のゾーン別整備

広々とした湖の風景を満喫する湖畔(Cゾーン)



水辺整備基本計画 (案)

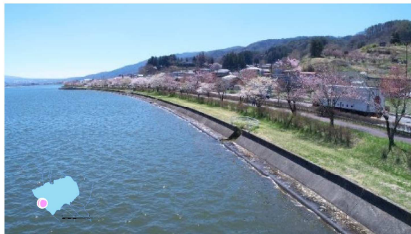
水辺整備マスタープランでの整備後の課題

- 眺望のよさを活かした整備が必要
- 岡谷市の歴史資産である鎌倉街道や、近年整備された砂防堤群など、堤内側には連携可能な資源があり、これらとの連携が望まれる。
- 湖周道路は交通量が多く、堤内との連携には工夫が必要である。
- 遊歩道やサイクリングロードなどの線的な利用はできているが、利用の拠点も望まれる。
- 整備済みの人工なぎさは、ヘドロの流入があり、親水利用の支障となっている。

住民意見

- 八ツ岳と諏訪湖は岡谷側が大変良い。こちら側も観光地になればよい。素晴らしい景観を是非残していくべき。
- 岡谷から眺める諏訪湖八ヶ岳は最高に美しい所
- 以前から伏流水が豊富な箇所であり、湖岸堤の整備に伴い伏流水が遮断されたと言われており、この復活と活用が望まれる。
- 道路、歩道よりも諏訪湖側（いわゆる湖のほとり）にラウンジやカフェがあることが望まれます。

八ヶ岳の眺望



整備 (利活用) の方向性

- 人工なぎさの活用と生物多様性を創出する護岸整備により風景が満喫できる河川空間の創造

整備方針

- 既存の人工なぎさの改良と生物多様性を創出する護岸整備範囲拡大による親水性の向上
 - ※山麓からの豊富な伏流水の利用に関する調査・検討
- 歴史資産でもある鎌倉街道や砂防施設との連携など、山麓から水辺までの一体的な利用と、風景が満喫できる河川空間を整備

整備内容



1677

釜口水門・大噴水をシンボルとした憩いの湖畔(Dゾーン)



水辺整備基本計画 (案)

水辺整備マスタープランでの整備後の課題

- 釜口水門をシンボルとした景観が形成されている。
- 湖畔公園の整備により、水辺も積極的に利用されている。

住民意見

- 絵になる釜口水門付近、ワカサギ釣舟等々、他地域から来た人達には宝物です。

※赤文字：当該ゾーンへの意見



整備 (利活用) の方向性

- 学習・体験の場としての釜口水門の利用により、憩いの湖畔としての魅力向上

整備方針

- 水門カード (製作済み) の配布による釜口水門や諏訪湖の役割の広報や学習の場としての活用
- 舟通しをカヌー等で通過することで非日常の体験、諏訪湖だけではなく、天竜川と一体となった利用、水面からみる噴水や湖畔公園などの景観の活用
- 船着き場を利用した防災拠点としての活用検討 (p.55参照)

整備内容



1678

図 5.13 水辺整備基本計画のゾーン別整備

水辺の生物と人との交流する湖畔(Eゾーン)

水辺整備基本計画 (案)

水辺整備マスタープランでの整備後の課題

- ハクチョウの飛来地である横河川河口を含め、抽水植物帯や木工沈橋、島等を作成している。
- 砂利敷なぎさに次いでヨシ・マコモ帯も多く、背後地は芝地が多い。
- ジョギングロード沿いの街路樹は種類が豊富で大きく成長しており、景観と一体化している。
- なぎさの直接的な利用は冬季のカモ類やハクチョウの観察等程度である。
- 浸透土の置き場は積極的な活用がされていない。
- 岡谷湖畔公園の利用者は多いが、そこから連続する水辺の利用はほとんどない。

住民意見

- 水辺の景観がよい
 - サイクリングロードを整備してほしい
- ※赤文字：当該ゾーンへの意見



整備 (利活用) の方向性

- 砂浜整備による、水辺の生物とふれあえる空間

整備方針

- 「泳ぎたくない湖」を実現するための、砂浜の創出 (覆砂：浅場造成)
- 堤内地に眺望を活かし、サイクリング利用者の利便性も考慮した公園整備
- サイクリングロードの整備による生物とのふれあいの機会の創出

整備内容



1679

湖面に浮かぶ自然と共生する湖(Fゾーン)

水辺整備基本計画 (案)

水辺整備マスタープランでの整備後の課題

- 自然に河川からの流下物による堆積が進み、整備されたシジミ浜と合わせて諏訪湖では数少ないシギドリ類の飛来する地点となっている。
- 魚類は確種種数、抽獲個体数が多く、多様性が高い。ソカサギが秋から冬に大群をつくる。
- 植物では沈水植物が比較的豊富である。
- 砂地の遠浅の環境を維持、向上していくことが望まれる。

住民意見

- 富士山がみられる場所が好き。癒やされる。
- 諏訪湖や富士山を眺めながら食事ができるレストランがあればよい。



整備 (利活用) の方向性

- 諏訪湖の自然河岸の保全により、水生動植物と共生できる水辺を復元し、『シジミの採れる諏訪湖』を目指す

整備方針

- 砥川、横河川等からは今でも良質な砂の供給があり、この良好な自然河岸を保全していく。自然に形成されている砂浜に水生動植物の代表であるシジミを再生させ、『シジミの採れる諏訪湖』の再生を目指す。
- 生態系に配慮した上で治水・利水浸透施設の選定と実施

整備内容



1680

1681

図 5.14 水辺整備基本計画のゾーン別整備

水上スポーツを楽しむ湖畔(Gゾーン)



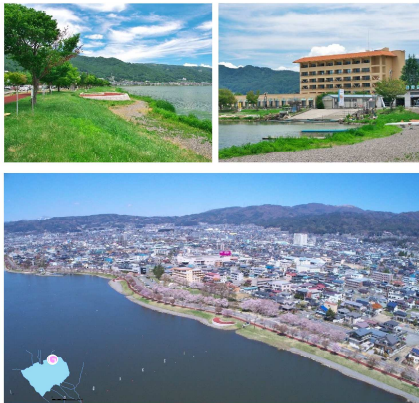
水辺整備基本計画 (案)

水辺整備マスタープランでの整備後の課題

- 下諏訪町の艇庫の立替を中心とした整備が予定されており、これと連携した整備が望まれる。
- 漕艇場としての利用、良好な景観形成のためには、繁茂するヒシの対策が必要である。
- 魚類は捕獲個体数、確認種類数が多く、ワカサギは春と秋に大群を確認し、他のゾーンでない岸辺付近でも多い傾向がある。
- 植物は確認種数が極端に少ない。

住民意見

- 桟橋や艇の置き場が少なかつたりするので、艇庫周辺等の整備を行ってほしい
- ヒシの刈りとり ※赤文字：当該ゾーンへの意見



整備 (利活用) の方向性

- スポーツを楽しむ空間の機能向上、災害時における人員・物資輸送拠点の整備

整備方針

- 災害時に船による人員や物資の輸送、下諏訪町の地域防災拠点である赤砂崎公園と一体利用を考慮し、防災機能付き艇庫建設に併せて護岸を整備する。
- スポーツを楽しむ空間として、艇庫、漕艇場の機能を向上させ、下諏訪町が進めている健康増進と連携し、健康とスポーツの増進を目指す。

整備内容



1682

湖の風景を楽しむ湖畔(Hゾーン)



水辺整備基本計画 (案)

水辺整備マスタープランでの整備後の課題

- マスタープランで目指した景観形成や親水空間の創出は達成できている。
- ヒシの繁茂が景観形成や親水利用、生態系の各視点で問題となっている。

住民意見

- 諏訪湖の景色はきれいで好きです。



整備 (利活用) の方向性

- 一面に広がる湖の風景を見ながら、散策やジョギング等が楽しめる水辺の利用

整備方針

- 「泳ぎたくなる諏訪湖」を実現するための、砂浜の創出 (覆砂：浅場造成)
- 清らかな水辺により心を潤す

整備内容



1683

1684

図 5.15 水辺整備基本計画のゾーン別整備

1685 (6) 諏訪湖周サイクリングロード基本計画による整備

1686 諏訪地域に住み、働き、集う全ての人々が、身近な交通手段として、自転車を安全で快適に利用
1687 できることを目指し、諏訪湖周サイクリングロードの整備を進めます。

1688 1) 整備の基本方針

1689 ● 4つの柱

安全・快適	安全に、誰もが無理なく利用できる諏訪湖周のサイクリングスペース*を整備します。
健康・スポーツ	ジョギングロードと有機的に連携し、誰もが気軽に健康増進が図れるサイクリングスペースを整備します。
観 光	諏訪湖周に立ち並ぶ美術館や公園などの施設と連携したサイクリングスペースを整備します。
環 境	これまで行われてきた施設整備や水辺の環境整備方針と整合し、眺望を楽しめるサイクリングスペースを整備します。

1695 2) 整備内容

1696 整備延長は全体で約 16.0km で、安全性確保のために、幅員は 3m 程度設定することにより、対面
1697 通行をスムーズにします。また、わかりやすい案内と路面標示に統一するほか、混雑が見込まれる
1698 場所では、構造上の配慮を検討します。

1700 3) 基本コンセプト

1701 諏訪湖周のジョギングロードやサイクリングロードを気軽に快適に利用できるよう、休憩施設と
1702 して、「レイクサイドオアシス」を設置します。この施設は、これまで整備されてきた施設（公園
1703 内のトイレ、ベンチなど）の活用を前提に、駐輪場などを新たに設置し、休憩スペースの充実を図
1704 ります。また、湖周に生息する昆虫類や植物の説明看板なども設置を検討します。

公園等にある既存のトイレ



諏訪湖畔公園のトイレ

自転車用のスタンド



案内サインのイメージ



1709
1710
1711
1712
1713
1714
1715
1716
1717
1718
1719
1720
1721
1722
1723
1724
1725
1726
1727
1728
1729
1730
1731

楽しくサイクリングできる環境整備 ～官民の連携～

サイクリングのための環境は官民連携して、次のような方針で整備を進めます。

①サイクルステーション&サイクルオアシスの整備

- トイレの利用、飲み物等の購入、自転車の修理ができるサイクルステーションを湖周に2～4箇所程度設置します。
- コンビニ等の既存施設をサイクルオアシス（休憩所）に認定し、ステッカー等で明示します。
- レンタサイクル事業者等と連携して、乗り捨てできる仕組みを検討します。

②ストレスなく情報収集できる環境の整備

- レンタサイクル施設、主要駅、観光施設などの情報をルートマップ（パンフレット）、スマホサイトで発信します。

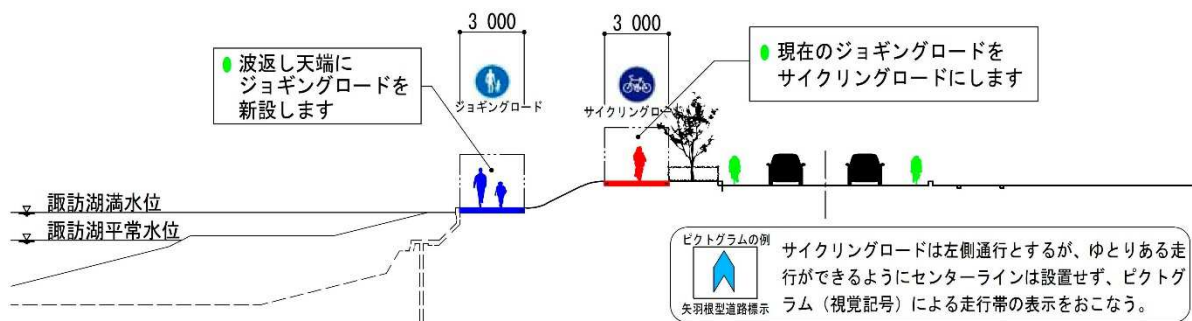
③周辺観光地と連携したサイクリングコースの設定

- サイクリングロードや、「まちなか観光」、「山岳高原」を活かしたコースなどニーズに応じた多彩なコースを設定します。
- アウトドア用車いすの活用団体等と連携し、身体障がい者等向けの情報発信を強化します。

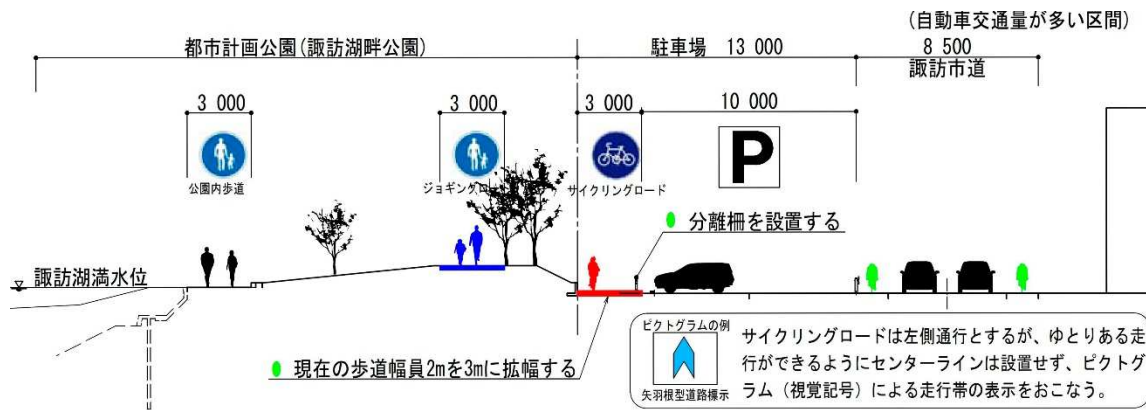
4) 整備パターン

サイクリングロードは、現状の周辺環境等を考慮し、主に以下のパターンで整備します。

- パターン1 現在のジョギングロードをサイクリングロードにする



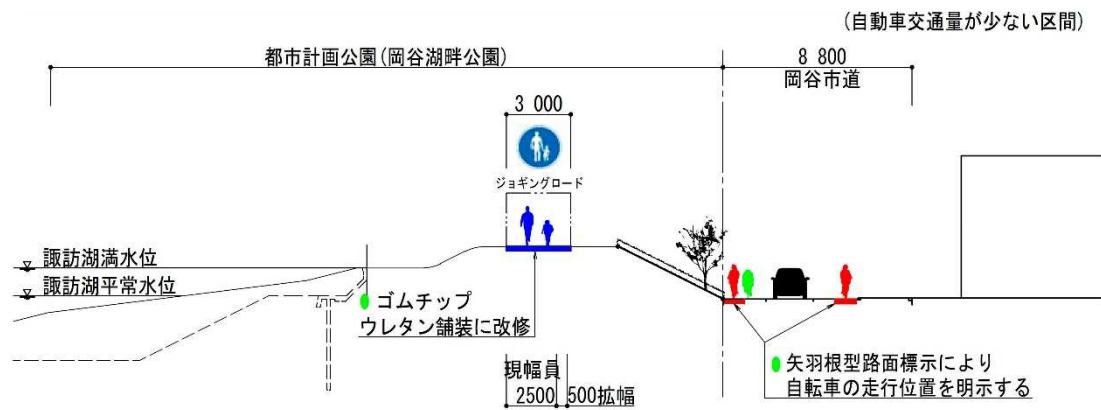
- 1732 ● パターン2 公園内の歩行者の安全確保のため公園内を避けて車道側にサイクリングロード
 1733 を迂回させる(自動車交通量が多い区間)



1734

1735

- 1736 ● パターン3 公園内の歩行者の安全確保のため公園内を避けて自転車・自動車が共存する道
 1737 路とする(自動車交通量が少ない区間)

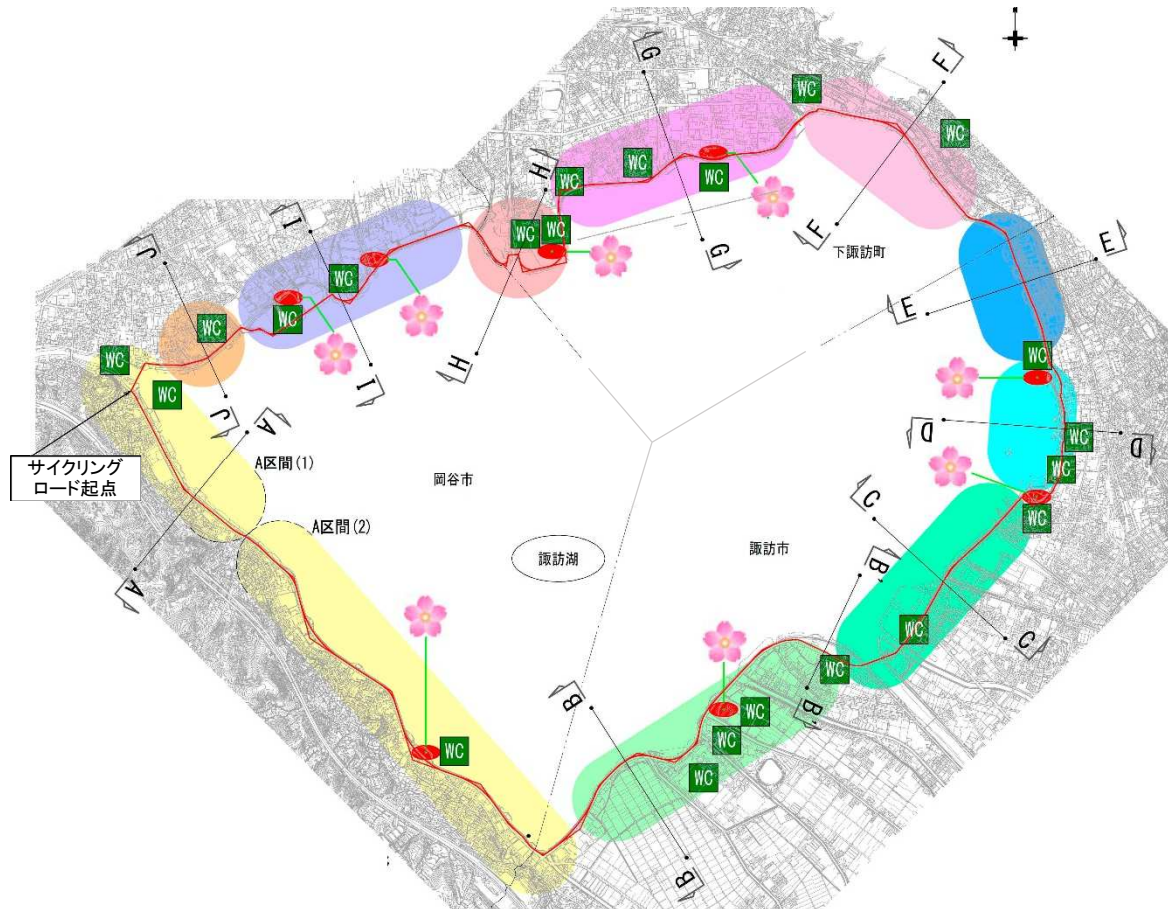


1738

1739

1740 5) 整備イメージ

1741
1742
1743
1744
1745
1746
1747
1748
1749
1750
1751
1752



<p>A区間(1): 釜口水門～湊小学校手前 A区間(2): 湊小学校手前～石舟渡交差点</p>	<p>石舟渡交差点～上川(1)</p>	<p>石舟渡交差点～上川(2)</p>	<p>上川～機関車(D51)前</p>
<p>機関車(D51)前～間欠泉センター</p>	<p>間欠泉センター～下諏訪町境</p>	<p>諏訪市境～下諏訪町高浜</p>	<p>下諏訪町高浜～赤砂崎公園手前</p>
		<p> レイクサイドオアシス候補地 8箇所 (歩行者・自転車利用者による湖周散策の快適性と利便性向上のため、トイレ・休憩施設・駐輪場などの整備を考えています)</p> <p> 現在湖周にある公共トイレ</p> <p>注記: 計画の整備イメージに用いている図は、完成イメージであり、必ずしも完成時と一致するものではありません。また、今後実施に向けた詳細設計で、関係機関との協議により一部ルートの変更になる場合もあります。</p>	
<p>赤砂崎公園手前～岡谷市境</p>	<p>I区間: 下諏訪町塚～岡谷南高校前 J区間: 岡谷南高校前～釜口水門</p>		

1753

図 5.16 サイクリングロードの整備イメージ

1754 (7) 観光活性化のための整備

1755 1) 民間団体等との連携

1756 諏訪湖周辺では、自転車を活用する団体やカヌー、カヤックで水面を楽しむ団体など、住民主体
1757 の様々な活動が広まってきています。観光客にもアピールできるメニューとして定着できるよう、
1758 これらの活動を民間、行政が一体となって推進します。

1759 ①スワコエイトピークストライアスロン大会

1760 本州中央部唯一のミドルディスタンスの大会として、諏訪地域全市町村をコースとして開催する
1761 スポーツイベントです。スイムでは、諏訪湖を実際に泳ぎ、バイクでは諏訪湖周や八ヶ岳西麓を駆け
1762 抜け抜けます。2022年に第1回の大会が開催され、全国から多くのトライアスリートが参加しまし
1763 ました。

1764 「泳げる諏訪湖」「泳ぎたくなる諏訪湖」の実現に向けた象徴的なイベントであり、観光の活性化
1765 なども寄与されることから、継続的な開催が期待されます。

1766



1767



1768

スワコエイトピークストライアスロン大会

1769 ②サイクルツーリズム

1770 塩の道サイクルツーリズム、#スワイチ、ジャパンエコトラック等の企画が整備された諏訪湖周
1771 サイクリングロードや諏訪地域を舞台に、地域の魅力発見を目的に開催されています。

1772 また、サイクリングガイドの養成も進められており、更に活発な活動が期待できます。

1773

1774 ③カヌー、カヤックでの利用

1775 雄大な水面と流入する流れが緩やかな河川、周辺の街並みなどを楽しむ水郷諏訪の魅力を感じる
1776 ことができるイベントなどを通じてカヌー、カヤックでの水面利用を推進しています。誰もが気軽
1777 に利用できる仕組みを構築することにより、広域からの観光利用が期待できます。



1778

1779 **カヌーでの利用**

1780

1781 2) フォトスポットの情報提供

1782 諏訪湖は、湖辺からみた水面、眺望点からみた諏訪湖、富士山や八ヶ岳などの美しい景色を楽し
1783 めます。これらの眺望点を「インスタ映え*」するフォトスポットとして、長野県のホームページ
1784 等で紹介することで、SNS*などを通じた情報の発信と、集客が期待できます。



1785



1786

1787

1788

フォトスポットの情報提供のイメージ

(左上段の写真のみ、下諏訪町ホームページより引用)

1789 3) インフラツーリズム*

1790 インフラを対象としたツアーが全国で行われ、インフラそのものが地域固有の観光資源として注
1791 目され始めています。諏訪湖でも釜口水門のように地域の治水や利水を担うインフラがあり、釜口
1792 水門や周辺に立地する美術館、間欠泉センターなど諏訪湖ならではの資源を結ぶツアーなどにより
1793 観光活性化を図ることが期待できます。



1794
1795 図 5.17 インフラツーリズムの事例 (首都圏外郭放水路)

1797 4) 芸術・文化施設との連携

1798 全国でも稀な美術館・博物館の集積地として、諏訪湖周にある17の文化施設が『諏訪湖アトリ
1799 ング協議会』を結成し「諏訪湖まちじゅう芸術祭」等様々なイベントを開催しています。個性豊か
1800 なミュージアムを擁するこの協議会が、諏訪湖を中心とした芸術や文化の体験の場の核となり、観
1801 光、地域における芸術文化環境の充実にも寄与できるものと期待できます。



1802
1803 まちじゅう芸術祭の様子

1804

1805

関連する計画（湖辺面活用・まちづくり）

1806

- 諏訪湖水辺整備基本計画

1807

- 諏訪湖周サイクリングロード基本計画

1808

- 諏訪湖かわまちづくり計画

1809

1810

1811 5.4. 調査研究・学びの推進

1812 5.4.1. 調査研究の推進

1813 ■ 課題

1814 諏訪湖の水質や生態系に関する調査研究はこれまでも行われてきましたが、まだ、解明できていな
1815 いことも多く、長期ビジョンの実現に向けては、諏訪湖における物質収支*（炭素、窒素等の循環、
1816 出入り）や貧酸素改善手法や生態系に関する事項など、今後調査研究を進めなければならないことが
1817 数多くあります。

1818 ■ 20年後の目指す姿

諏訪湖の恵みを知り、育つ学びの場

1819

- 1820 ● これまで解明できていなかった各種テーマの研究が進み、よりよい諏訪湖とするための方法
1821 が提案され、それらに基づく効果的な対策が講じられている。

1822

1823 ■ 今後5年間の取組（県・流域市町村・関係機関）

1824 諏訪湖における水質や生態系の保全に関する調査研究を行います。

- 1825 ● 諏訪湖の底質、貧酸素発生状況の把握及び貧酸素の改善手法に関すること
- 1826 ● 貧酸素水塊の挙動に関すること
- 1827 ● ヒシ除去場所及び覆砂場所における水質浄化効果と生態系に及ぼす影響に関すること
- 1828 ● ヒシの繁茂状況、沈水植物の分布状況、水生植物の適正管理など植生に関すること
- 1829 ● 水質や関係データの解析、汚濁負荷物質の収支など汚濁負荷のメカニズムに関すること
- 1830 ● 諏訪湖に流入する河川の水量、諏訪湖への地下水流入の状況など水の流れに関すること
- 1831 ● 流出水対策地区における汚濁負荷の低減に関すること
- 1832 ● 諏訪湖の水質・底質と生物量の関係に関すること
- 1833 ● 多様な魚類の生息環境を形成するための技術に関すること
- 1834 ● マイクロプラスチック*の存在実態把握に関すること
- 1835 ● 有害化学物質の環境残留実態と生態系への影響に関すること
- 1836 ● 諏訪湖の水質・生態系への気候変動の影響と適応策に関すること

1837

1838 5.4.2. 諏訪湖環境研究センター（仮称）の設置

1839 ■ 課題

1840 諏訪湖の水質や生態系などの調査研究に関して、県では環境保全研究所、水産試験場、建設事務
1841 所などの機関で分かれて行われており、また、信州大学や公立諏訪東京理科大学、諏訪湖クラブ等
1842 の大学・民間団体等様々な関係者も調査・研究を行っていますが、これらの連携体制が十分ではあ
1843 りませんでした。そのため、県機関における調査・研究の業務を集約し、県とこれらの関係者の連
1844 携を強化するとともに、一体的に調査研究を行う体制のほか、情報発信や環境学習を推進する仕組
1845 みや拠点を整備していくことが求められています。

1846 ■ 20年後の目指す姿

1847 諏訪湖の恵みを知り、育つ学びの場

- 1848 ● 諏訪湖に関する調査・研究を、関係者が連携して総合的に進めるための研究拠点が整備さ
1849 れ、情報発信や環境学習の場としても活用されている。
- 1850 ● 諏訪湖が国際的な湖沼研究の場となり、国内外から多くの研究者や見学者が訪れている。

1852 ■ 今後5年間の取組（県・流域市町村・関係機関・関係団体）

1853 諏訪湖の水質及び生態系の保全、県内河川・湖沼等の水環境保全に関する調査研究体制を充実強
1854 化するとともに情報発信や環境学習を一層推進するため、岡谷市に「諏訪湖環境研究センター」
1855 （仮称）を設置し、諏訪湖を一体的・総合的に調査研究する体制を整備するとともに、地域や地元
1856 大学等の関係機関との一層の連携、人材の確保・育成など充実強化、情報発信や環境学習の推進を
1857 図ります。

1859 表 5.12 諏訪湖環境研究センター（仮称）の設置目的

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① 諏訪湖の近隣地に設置し、諏訪湖を取り巻く状況変化に柔軟に対応② 諏訪湖及び県内河川・湖沼の水環境保全等に係る業務を集約し、ワンストップ体制を確立③ 大学・地域関係団体との連携強化④ 諏訪湖及び県内河川・湖沼等の調査研究の推進及び人材の確保・育成⑤ 情報発信の強化、学習活動の推進、住民の諏訪湖及び水環境に関する関心・理解の向上 |
|---|

1860

1861

1862 5.4.3. 学びの推進

1863 ■ 課題

1864 諏訪湖に関しては、小学校での総合的な学習の時間や各種団体が実施されている環境教育など
1865 で、学ぶことができますが、諏訪湖周でまとまった学習をするための仕組みや場がありません。

1866 アダプトプログラム等の愛護活動も行われていますが、諏訪湖に関心を持たない住民も多く、諏
1867 訪湖の水質が改善していることも周知できていません。

1868 住民の意識をみると、かつての治水を目的とした護岸整備等により、親水性が低くなり、湖と流
1869 域住民との関係が疎遠になった時期がありました。また、アオコが発生するなど諏訪湖の水質が悪
1870 化したときには、住民の諏訪湖に対する関心が非常に高くなりましたが、水質が改善傾向に向かう
1871 につれて、住民の諏訪湖浄化に対する関心が下がってきています。

1872 諏訪湖創生ビジョンでは、流域住民、県民、観光客の諏訪湖への関心を高め、諏訪湖の恵みをよ
1873 り多くの人たちが享受できるように、諏訪湖創生に対する気運を醸成していくことが求められてい
1874 ます。

1875

1876 ■ 20年後の目指す姿

1877 諏訪湖の恵みを知り、育つ学びの場

1878 ● 諏訪地域はもとより、長野県内の多くの子どもたちや、観光客が諏訪湖及び流域の水環境や歴
1879 史・文化を学んでいる。

1880 ● 住民の多くが諏訪湖に関心をもち、アダプトプログラムなど協働の取組に参加している。

1881 ● 住民がゴミ拾い、ヒシ刈り等ボランティア活動、諏訪湖に関わる自然体験などを実施している。

1882 ■ 今後5年間の取組（県・流域市町村・関係機関・関係団体・住民）

1883 諏訪地域をはじめ長野県内の多くの子どもたちや観光客が、諏訪湖の水環境や歴史・文化を学ぶ
1884 環境づくりを推進します。学ぶための仕組みとして、文化や水環境保全等をテーマにした諏訪湖の
1885 案内人（仮称）を育成します。また、小中学生への環境教育のために、官民連携して、子ども向け
1886 冊子「諏訪湖読本」や、諏訪湖を活用した環境教育プログラムをつくりました。

1887 住民の諏訪湖への関心を高めるために、長年活動している諏訪湖アダプトプログラムを更に継続
1888 します。

1889 諏訪湖の水環境保全等に対する住民意識向上のため制定した「諏訪湖の日」（10月1日）の周知
1890 を行うとともに、官民連携して諏訪湖の水環境保全等に対する住民意識向上等のための活動を推進
1891 します。

1892 県の「出前講座」による諏訪湖に関する学習会や稚エビの放流体験の機会を設けるとともに、小
1893 学生向けに作成した「みんなの諏訪湖～諏訪湖読本～*」を利用した学校での諏訪湖に関する学習
1894 の実施など、環境学習の活動を推進します。

1895 諏訪湖環境研究センター（仮称）を中心に、地域住民をはじめ観光客等諏訪湖を利用する人々の
1896 水質保全及び生態系保全意識の高揚を図ります。

1897 また、諏訪湖に関する調査の結果や研究の成果、水質保全につながる情報などを、県のホームペ
1898 ージや各種会議などで提供します。

1899

1900 関連する計画（調査研究・学びの推進）

- 1901 • 諏訪湖に係る第8期湖沼水質保全計画（第8期諏訪湖水質保全計画）

1902

1903
1904
1905
1906
1907
1908
1909
1910
1911
1912
1913
1914
1915
1916
1917
1918
1919
1920
1921
1922
1923
1924
1925
1926
1927
1928
1929
1930
1931

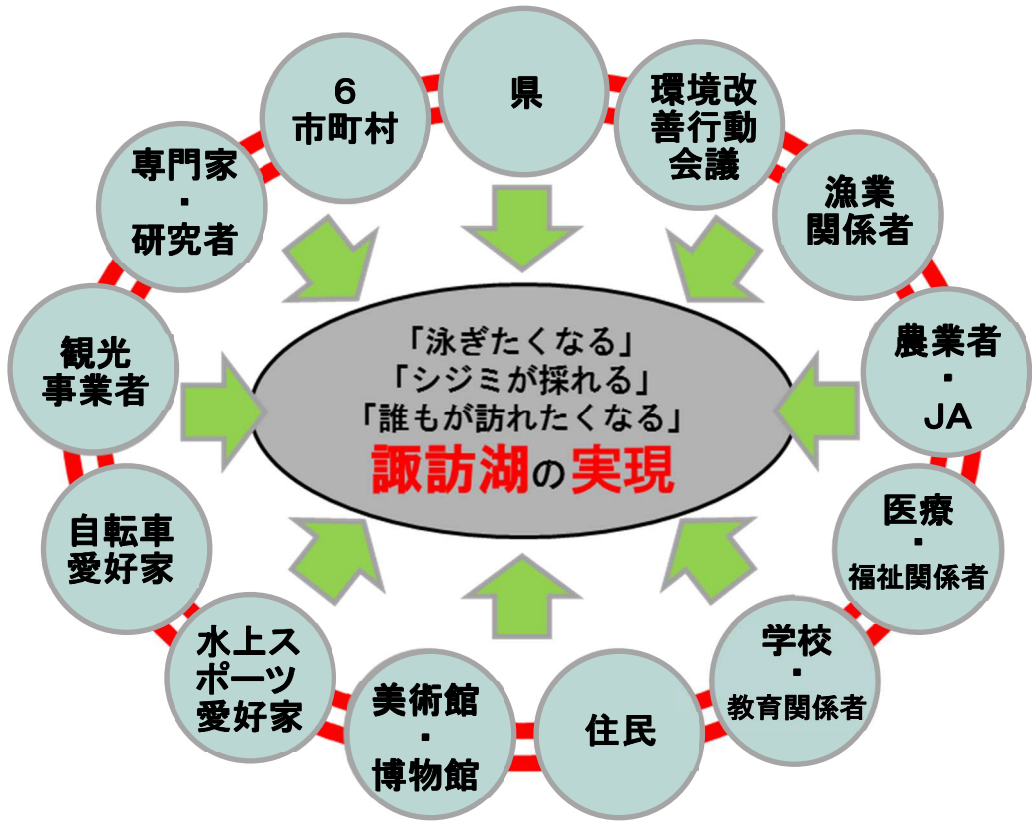
6. 計画の推進体制

6.1. 推進体制

諏訪湖環境改善行動会議、アダプトプログラムをはじめとする住民連携による諏訪湖の浄化などの活動、地域で自主的に活動しているまちづくり団体による湖辺面活用は長年行われており、一定の成果を得ていますが、長期ビジョン「人と生き物が共存し、誰もが訪れたいくなる諏訪湖」を実現するためには、これからの諏訪湖のあるべき姿を見据えて、団体間連携を強化するとともに、諏訪湖周のみならず上流域を含めた全ての住民の意識を向上させ、積極的に参加できる仕組みをつくる必要があります。

このため、各団体等が連携、協働しつつ、それぞれが自主的、主体的に取組を進めていくことができる体制として、県、市町村、諏訪湖に関わる取組をしている団体や企業等のほか、個人も参加できる「諏訪湖創生ビジョン推進会議」が設置され、下流の天竜川流域の団体等とも連携しながら取組を進めていきます。推進会議により、市町村、諏訪湖保全等に関わる民間団体、湖周の美術館、博物館、旅館、ホテル等地域の様々な企業・団体と連携、協働して、水環境保全のための取組、教育、まちづくり、観光振興、健康増進等様々な取り組みを進めていきます。

諏訪湖創生ビジョン推進会議には部会を設けてテーマごとに議論するとともに、具体的な事業についてはワーキンググループを立ち上げて機動的に取組を進めます。



1932

6.2. 進捗管理

1933

関係する団体等の参画により構築された「諏訪湖創生ビジョン推進会議」において、それぞれの
1934 団体等が行う取組の進捗状況等を把握して関係者間で共有するとともに、住民の皆様にも広く公表
1935 し、より効果的な取組を検討できるようにしていきます。

1936

1937

1938

1939

1940

1941

1942

1943

1944



1945

「諏訪湖創生ビジョン」フォト・イラスト作品選考会 入選 『つなごう未来へ』

1946